

「日々の理科」(第 3016 号) 2022, 11, -9

「秋の東北鉄道旅行 (17)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

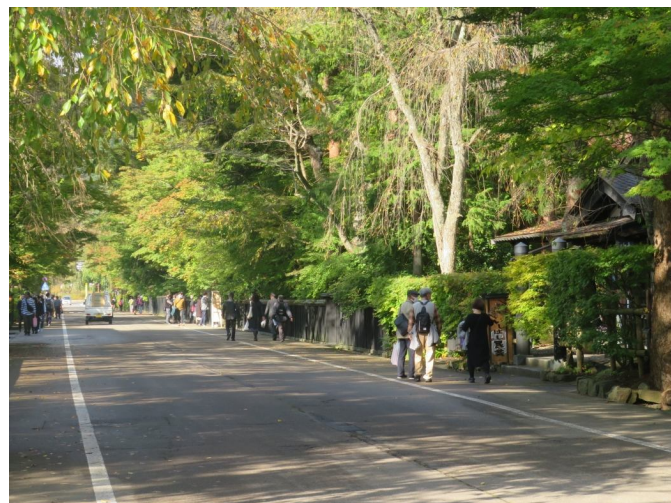
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

角館は四季を通じて美しい土地である。写真や絵が好きな者なら、いつ訪ねても、地区のどのあたりを歩いても、題材には事欠かないだろう。



これは「冬の武家屋敷」である。角館は秋田県の内陸に位置するが、日本海側の気候なので、冬にはかなり雪が積もることもある。冬に訪れる人は少ないが、私は角館の雪景色が気に入っている。



10月の東北地方は、秋が深まり行く時期だが、この日はよく晴れていて、風もなく暖かかった。駅から「電動自転車じゃない貸自転車」を飛ばしてきたので、長袖では暑いぐらいだった。私は上着を自転車の「カゴ」に放り込んで、風を感じながら武家屋敷通りを二往復もした。駅からこの通りまでは歩いて大したことはないが、武家屋敷通りを端から端まで歩くと、相当に時間がかかる。自転車は大変重宝した。



ところどころに茶店もあって、ちょっと一休みしたかったが、秋田行きの新幹線の時刻が迫っていたし、もう一カ所寄りたいたところもあったので、名残惜しく通過した。



武家屋敷界隈から、檜木内川へ道も、ちょっとした商店街になっていて、観光客で賑わっていた。



檜木内川(ひのきないがわ)は、日本海へ注ぐ雄物川の支流の一つで、角館地区の西側をゆったりと流れている。この川が「自然の堀(要害)」となり、角館に城を築く好立地としたのだ。河畔は東北屈指の「桜の名所」でもあり、特に春は、多くの観光客で賑わう。